

1600 字

「全国藩校サミット福山大会にむけて」

誠志館高校OB会 会報

穂高健一

老中首座の阿部正弘が国難を救った

歴史から学ぶ。私たちが現在から将来を見通すとき、ふりかえって過去の事例をさがせば、どこかに類似的な点がある。なぜならば、人間は、突然変異なことは行わないからである。そのためには歴史が真実でなければならない。

わが国で国難を救った人物は二人います。ひとは2度の蒙古襲来に立ち向かった北条時宗です。もうひとは西洋列強の資本主義、植民地主義の荒波に正面から対峙した阿部正弘です。

阿部正弘は国事の中核に座っており、18歳のときに備後福山にお国入りしたのが一度だけです。

しかし、国許から目が離れていたわけではなく、正弘は文武一体の教育をすすめた。藩校・誠之館が江戸に1854年（嘉永7年）に、福山には1855年（安政2年）に開校した。

「藩士の身分ではなく、実力に応じて取り立てる」

人材の養成と登用の道を開いた。

徳川権が250年も長く続けば、当然ながら、内部は旧弊な古い体質、世襲制に陥る。当然ながら、福山においても、古い家柄、世襲を重んじる武士社会です。文武の実力で身分や地位が決まる。扶持（年収）が連動する。となると、世襲制にしがみ付きたい者から、強い反発が出ている。古い仕来りを打ち破る強さが、阿部正弘の魅力でしょう。

嘉永6（1853）年に、アメリカ艦隊のペリー提督が、西欧列強は最新軍監で射程の長い大砲、近代的な武器で浦賀に来航します。翌月にはロシアのプチャーチン提督も長崎にやってきます。

徳川幕府は旧世代的な、保守的なカビの生えた体質だった。

「異国船は撃ち払え」

当時の日本は伝馬船、弓矢と砲筒です。戦力はとてつもない差があります。

「わが国は武士道で勝てる」

と勇ましい。しかし、西洋にも騎士道がある。

若き老中首座の阿部正弘は、優秀な知的人材の抜擢しか、唯一、国家を守れないと考えた。世界が資本主義、通商主義に向かうなかで阿部正弘は、戦争をせず、植民地にならず、開国・通商の道を開いた。アジア・アフリカ・中南米

を見わたしても、阿部正弘ほど優れた開国の手腕をみせた政治家はいないのである。

植民地にならなかったのは、アジア、アフリカ、南米で唯一の国です。それだけでも、阿部正弘の偉大さがわかります。

わが国で国難を救った人物は二人います。ひとりは2度の蒙古襲来に立ち向かった北条時宗です。もうひとりは西洋列強の資本主義、植民地主義の荒波に正面から対峙した阿部正弘です。

因習的な時代錯誤の幕閣、大名、幕臣を敵にまわしてでも、阿部正弘は戦争せず鎖国から開国し、通商、近代化の道を拓いた。優秀な人材を抜擢し、適材適所で、国家を守る

ところが、明治政府は、自分たちをより大きく見せるために、明治政府がおこなった幕末史の歪曲は、日本国民のためにならない。薩長史観で、阿部正弘は歪められている。

「徳川政権を軟弱で、アメリカに蹂躪じゅうりんされて開国させられた。ペリー外交に敗けた阿部正弘と攻撃の材料にされてきた。

ペリー提督との交渉で、日本は決して弱腰でなかった。植民地は一か国が一か国を支配するものである。通商において五か国同時に結べば、植民地にならない。阿部正弘の戦略が生かされた。

それを正すためには、海外の良質な史料を読み込んで、明治政府から作られたメッキを剥がそうとおもった。

難局を切り抜ける。それは

日本はヨーロッパ情報をオランダから得ていた。阿部正弘が老中になる天保末期には、アジアで英字新聞が発行されていた。

老中首座の阿部正弘は、ヨーロッパで唯一貿易特権を与えているオランダ側に、毎年の取引の折り、英字新聞を蘭語（オランダ語）にして持ってくるように条件を付けた。それが『オランダ風説書』（風説＝情報）だった。

それがオランダの通詞によって日本語に翻訳されて江戸の幕府に、毎年届けられていた。私は良質な史料だと考えて、すべて読み通した。海底ケーブルの敷設、エジプトとトルコの政情不安、ミラノの殺人事件など、こんな事も阿部正弘は知っていたのか、とおどろいた。考えてみれば、アジアにいる欧米人向けの英字新聞だけに、かれらの母国情報だから、克明だ。現代の新聞縮刷版の外電を読むよりも克明で、その情報量は膨大だった。

阿部正弘はヨーロッパが資本主義で、貿易で国が豊かになっている。アダムミスの『国富論』が経済理論の骨格だと知っていた。

「これだけの海外情報があれば、開国の道を選ぶだろう」

私たちは日本史の教科書で、ペリー提督来航以前の日本は、鎖国で海外情報に無智だったように教わった。

「歴史学者は大ウソつきだ」

そう叫びながら、次つぎに『オランダ風説書』を読んだ。現代の高校の世界史で学ぶよりも、数十倍の情報量だった。

「日本人がなぜ英語を話せたのか」

これも良質な史料があった。利尻島に上陸したアメリカ人冒険家・マクドナルド「日本」

尊皇攘夷は正しい思想家。開国・通商は悪の思想か。現代の視点から、その二つを天秤に謀れば、異国人と見なせば殺戮した。人道的にもよくない。鎖国時代にもどせよ、と叫び続けたのは、当時の状況から清国と英国のアヘン戦争が日本で勃発する可能性が高かった。自由通商貿易を迫った、開国戦争だったからだ。

江戸時代の徳川政権を通して、最も有益な人材を輩出している。御三家の水戸藩は、一戦を辞せず、急先鋒だった。